Iiyama Tabi-Tabi

VOL.10 飯山旅々。

選べるいいやま旅のプラン

特集 里の芸術

あなたの好みの旅、みつけませんか

飯山市商工観光課／一般社団法人 信州いいやま観光局　〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1　TEL：0269-62-3133　FAX：0269-62-7003　www.tabi-tabi.com

Iiyama Tabi-Tabi
飯山旅々。
選べるいいやま旅のプラン

表紙：《夕月 奥信濃》一部　長谷川青澄
（1994年、120*70cm、飯山市美術館蔵）

「飯山旅々。」とは

信州、飯山の地元密着型の旅のプランを届けるウェブサイトです。その数多ある旅を、背景にある物語とともに知ってほしいという思いから、本誌「飯山旅々。」は生まれました。登場するのは、旅のプランで会いに行ける場所や人。飯山の温もりを、紙の手触りとともにお届けします。みなさんの、旅のきっかけになりますように。

春号／目次

1　連載　会ってかし！いいやまのかお
2　巻頭特集　「里の芸術」
3　絵　画　画人・長谷川青澄をみる
7　造　形　開館10周年、高橋まゆみ人形館
9　内山紙　内山紙を漉き裁つ
11　彫　刻　寺の町の芸術
13　建　築　名建築に、会いに行く
15　音　楽　斑尾に響く音
17　飯山旅々。春夏のおすすめ旅
18　連載　いいやま うまいもの

会ってかし！いいやまのかお

❸ Faith Farm 代表
水野尚哉さん

令和元年、第16回お米日本一コンテストinしずおかで特別最高金賞に輝いた水野さん。Faith（＝信頼・誓い）の名前の通り、健康をテーマに信頼の米づくりを行っています。「両親が病気になったことがきっかけで、現在のピロール農法に出会ったんです」。栄養価が高く健康になれる米を追及し、自らの名を掲げたオリジナルブランド『七〇八米（なおやまい）』を展開中。「米は生薬でありたい」という強い信念から生まれる逸品を通して、飯山の米のおいしさを発信しています。

●戸狩地区上種にあるFaith Farmで会えます。直接販売がメインなので、購入の際は事前にHPからお問い合わせを

聞き手・書き手　栗原英里子

「里の芸術」

ときに自然の色で世界は満ち
ときに色をなくした世界が広がる飯山。
風水の音や鳥の声が耳に響き
雨上がりには土の香りが湧き上がります。
深く積もる雪は青く冷たく
夏の太陽は燦々と照りつけます。
春、夏、秋、冬。
四季の変化に富んだ飯山は
五感に訴えかけ、感性を刺激します。
そんな里の気配に触発された芸術や
あるいは、里の気配をとじ込めた芸術が
ここ、飯山にはあります。
この地だからこそ育まれた里の芸術を
めぐる旅にでかけませんか。

写真：《暖かい畑》齋藤一郎（1991年、飯山市美術館蔵）

古いメタセコイアの切り株に漉いた和紙を貼り、乾かしたもの。
木の拓本のように年輪や木の朽ちた破片が浮かびます

飯山市美術館へ
画人・長谷川青澄をみる

飯山ゆかりの芸術家について学芸員の井端伸介さんに聞きました。
聞くほどに、作品の奥行きが増していくようです。

飯山市に生まれた長谷川青澄は、戦後の日本画家として、日本美術院展同人評議員として活躍した人物です。

「売るための絵は描かない」というのが口癖で、高い評価を得ながらも画商とつきあうことなく、旧家の敷地内に建つ二間ほどのアトリエ兼住居を借りて絵を描き、画塾・含翠会を主宰しながら描きたい絵を描き続けました。絵を売る〝画家〟ではなく〝画人〟であると言い、制作に熱中する姿はストイックでときに怖さを感じるほどだったと、飯山市美術館の学芸員、井端伸介さんは振り返ります。

すべては飯山に原点がある

17歳のとき、父の仕事の都合で東京へと引っ越した青澄は、そこで大和絵の第一人者として知られた吉村忠夫に学び、日本画の世界へと導かれていきます。疎開により28歳から35歳まで再び飯山で暮らした後は大阪に居を移し、亡くなるまでを過ごしました。

多感な時期を飯山で過ごした青澄は、自身の美意識は飯山で育まれ、作品のすべては飯山に原点があると振り返っていたそうです。だからこそ、晩年の多くの作品を飯山市に寄贈します。それがきっかけとなり１９９７年に飯山市美術館が設立され、開館記念展として「長谷川青澄 第1期・第2期」が開催。これまでにあわせて5回の企画展が催されました。

日本画と西洋画の融合を目指して

52年、37歳のときに師の吉村が急逝、日本美術院同人で美人画の中村貞似に師事するようになり、院展への出展を目指します。

当時はピカソ、マティス、ブラックなど、フォービズム（野獣派）やキュビズム（立体派）と呼ばれる西洋の作家たちの作品が次々と紹介された頃。日本画家たちは、伝統的な日本画に西洋の技法を盛り込みながら、新しい絵画の形を模索していました。青澄も、この頃から一見油絵と見紛う厚塗りの作品を描くようになります。題材も、外国人やオーケストラなど、西洋のものも取り入れるようになりました。

その後は能や狂言、歌舞伎、日本舞踊、文楽など、日本の伝統芸能を描くようになり、そして代表作である《月（石山）》《後の月》など、源氏物語の絵巻物をモチーフ

《夕月（奥信濃）》長谷川青澄（1994年、120*70㎝、飯山市美術館蔵）

長谷川青澄
はせがわせいちょう
1916年飯山市生まれ。本名は義治。日本美術院同人、同評議員にもなった。2004年87歳で逝去。

フにした作品を生み出します。《月（石山）》は第75回院展で内閣総理大臣賞を受賞しました。

日本の伝統をモチーフとし、金箔・銀箔など伝統的な技法を用いながらも、厚塗りやはっきりとした陰影などにより生まれる重厚さは、目指した日本画と西洋画との融合を物語っています。クリムトを好み、意識して描いていたということも、作品のなかにみてとれます。

《僧親鸞》長谷川青澄
（1996年、185*136.5㎝、
飯山市美術館蔵）

飯山を描いた貴重な作品

飯山への思いを強く持ち続けた青澄ですが、飯山が作品のモチーフとして登場することは多くはありません。その数少ないなかのひとつが《夕月（奥信濃）》です。少年時代、スケッチブックを抱えてりんご畑で絵を描いていたという青澄は、その思い出を重ねてこの絵を描きました。

千曲川のほとりの風景を描いた《雪国》は、疎開から引き上げる頃に描かれたと推察されています。雪景色のなか、背景に飯山らしい緩やかな山並みとりんごの木を配し、千曲川と並行して牛ゾリに引かれる道行です。少年や、スケッチブックを持つ青年は自身であり、芸妓は少年時代に時折、預けられていた飯山の料亭「村田家」を思い起こしたものではないかとも。彼らの表情は未来への不安なのか決して明るくはなく、その寂しげな気配に引きつけられます。30代という若かりし頃に描いたとは思えない、才能の片鱗を感じさせる作品といわれています。

《雪国》長谷川青澄
（昭和20年代、158*120㎝、
飯山市美術館蔵）

《母なる山 妙高》長谷川青澄
（2000年、122*143㎝、
飯山市美術館蔵）

晩年、募る故郷への思い

80歳のときに京都伏見の法界寺・阿弥陀如来像と親鸞上人を描いた《僧親鸞》は、絶頂期から晩年へと移行していくターニングポイントとなる作品です。制作中に倒れることもあり、何度も「死」を意識したそうです。気力・体力すべてを振り絞って描ききったあとは、これほど大きな作品を手がけることはなく、深い精神性を写し込んだかのような作品に取り組んでいくようになります。

そのなかで描いた作品が《母なる山 妙高》です。母の故郷であり、飯山に隣接する新潟県中頸城郡平丸村（現妙高市）からみた妙高山と、山を眺める背を向けた母、そして幼少期の自分とを描いたものです。80歳を過ぎた頃、青澄は飯山市へ移住する思いを強くするものの、その年齢で豪雪地暮らしは厳しいだろうと断念するのです。そして84歳のとき、死んだら飯山に送ってほしいと、この絵を描きました。自らを絵に描き、自身の代わりに飯山へ送ったのです。画家でも画人でもなく、ひとりの人間として描いた作品です。それから3年後、87歳でその生涯を閉じました。

飯山ゆかりの作家にめぐりあう

飯山市美術館には長谷川青澄のほか、飯山ゆかりの作家の作品が多く収蔵されています。

和紙を題材とする齋藤一郎の作品もまた、飯山を感じさせる作品です。自ら漉いた和紙に土などを混ぜたり、あるいは垂らしたりして独特の色合いを生み出していきます。

飯山市美術館では常設展のほか、年に1～2回、企画展も開催しています。学芸員の言葉に耳を傾け作品に向きあってみませんか。作品は飯山という風土と深く結びつき、それまでとは違う輝きをみせてくれるはずです。

《雪の音》齋藤一郎
（1991年、飯山市美術館蔵）

飯山市美術館
飯山市飯山1436-1
開：9時30分～17時（入館最終16時30分）
休：月曜（祝日の場合は開館）
料：一般300円、小中学生200円
（割引共通券あり）
TEL 0269-62-1501
※9月19日㈯～11月3日㈫まで臨済宗中興の祖・白隠禅師を正しい悟りに導いた飯山ゆかりの正受老人の300年遠諱を記念した特別展を開催

JR 飯山駅から徒歩 20 分、JR 北飯山駅からは徒歩 5 分です

《大衆食堂》（2011 年）

開館 10 周年、高橋まゆみ人形館

訪れる人の心を揺さぶり続ける人形たち
高橋まゆみさんに 10 周年の思いをうかがいました。

腰の曲がった野良着姿のおじいちゃんやおばあちゃん。〝里の芸術〟という言葉そのもののような郷愁を誘うその人形たちは、高橋まゆみさんが嫁ぎ先の飯山市でみた風景、出会った人、大家族だった婚家に満ちていた思いやりの気持ちなどを形にしたものです。

「近くにある、忘れたくないものを残したくて」

高橋さんの言葉の通り、高橋まゆみ人形館には、古びた大衆食堂やちんどん屋の行列、祭りや葬式など、何気ない日常でありながら、だからこそ心の奥の方に語りかけてくる、そんな人形が並びます。

人形館が開館してから10年。他県から常設館建設の引き合いもあったそうですが、「飯山で生まれたものだから、飯山に根づかせてあげたかった。ここでないと意味がなかったんです」。その一方で、遠方から訪れた人も、ときには外国人ですら「どこか懐かしい」と感想を寄せてくれるなど普遍的な存在であることも確かです。

館ができて人形が収蔵できるようになり、つくった時間やエネルギー、思いを留めておけるようになったことも、高橋さんにとって大きなことでした。「張りにも、責任にもなる」と高橋さん。人形たちは常設展のほか、年数回、県内外の他館の企画展で展示されています。

展示のほか、敷地の畑で野沢菜や蒟蒻芋などを育ててカフェで提供したり、干し柿を吊るしたりと、10年の間、スタッフやサポーターとともに楽しみながら走ってきた高橋さん。人形の着物の作り方を習ったり、着付けを習ったり、最近では外国人に直接自分の言葉で伝えたいと英語を習ったり。「学ぶことに遅いなんてないんです」。次の10年はさらに、訪れる人の心を揺さぶる人形や空間に出会うことができそうです。

《小人のひそひそ話》（2019 年）

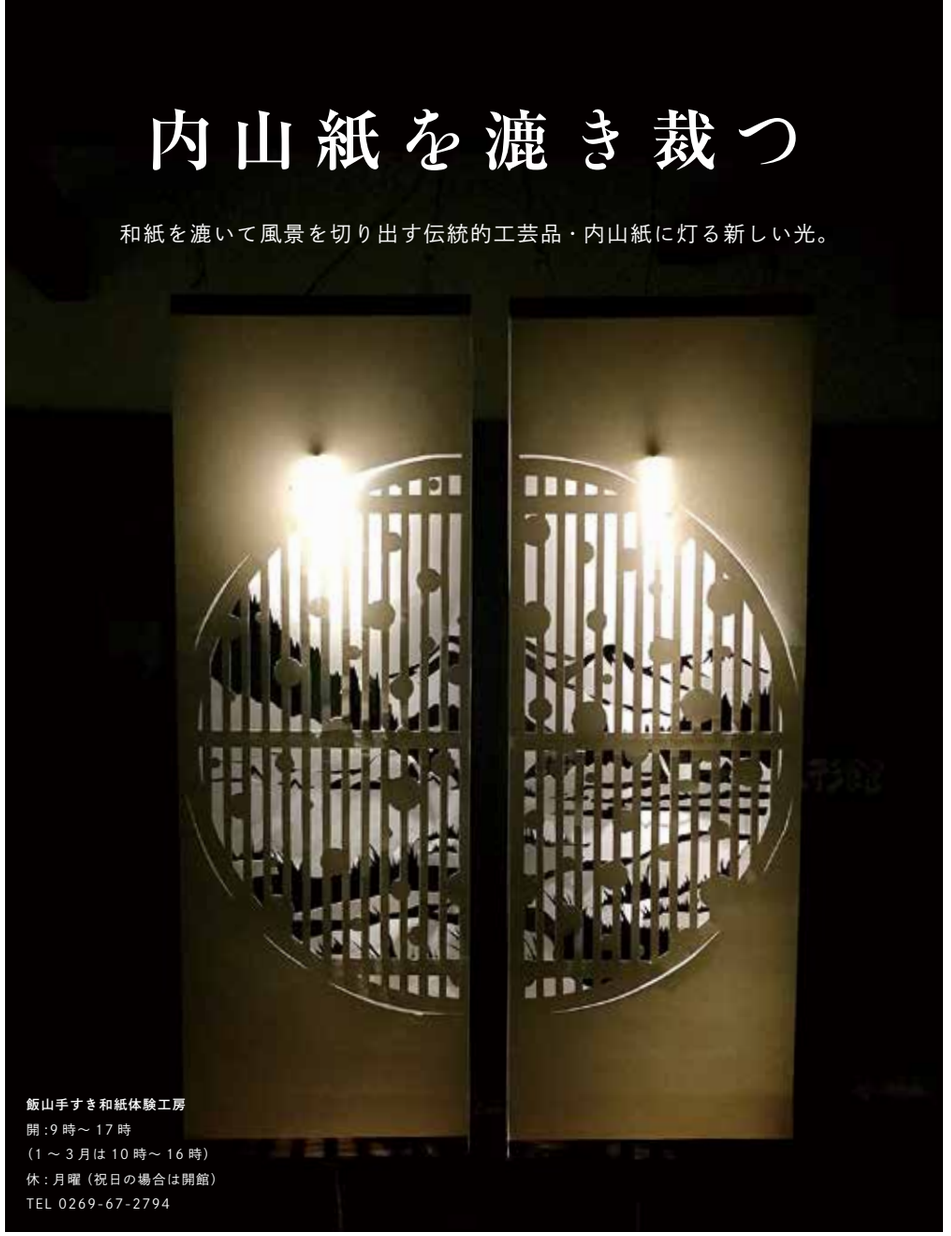
▶ 10 周年記念「もう 1 度会いたい人形展」
昨年、公募したリクエストのなかから人気の高い作品を展示します。「順位をつけるのではなく、ただ、みなさんがどれを好きなのか知りたかったんです。人形の好みも好き不好きですから」と高橋さん。
3 月 26 日㈭～ 9 月 29 日㈫

高橋まゆみ
たかはしまゆみ
1956 年長野市生まれ。日本創作人形学院通信教育で人形創りの基礎を学ぶ。1998 年ユザワヤ創作大賞での部門大賞受賞を皮切りに、新世紀人形展、日本工芸美術展等で各賞受賞。著書に『高橋まゆみ 人形ふれあい暦 四季折々のおくりもの』（信濃毎日新聞社）ほか

高橋まゆみ人形館
飯山市飯山 2941-1
開 :9 時～ 17 時
（12 ～ 3 月は 10 時～ 16 時）
休 : 水曜（祝日の場合は開館）
TEL 0269-67-0139

内山紙を漉き裁つ

和紙を漉いて風景を切り出す伝統的工芸品・内山紙に灯る新しい光。



飯山手すき和紙体験工房
開：9 時～ 17 時
（1 ～ 3 月は 10 時～ 16 時）
休：月曜（祝日の場合は開館）
TEL 0269-67-2794

「いいやま灯篭まつり」で展示したタペストリー。工房には展示していません

江戸時代、美濃から飯山に伝わったとも、マタギが移動中に習得したともいわれる内山紙。雪にさらすことでより白く、かつ丈夫で日焼けしにくい和紙になることが特徴です。時代が変化し職人が減っていくなかで、内山紙の職人を目指して平田真澄さんが飯山に移住したのは２０１０年のこと。市内の阿部製紙で修業し、現在は飯山手すき和紙体験工房で体験のサポートなどのかたわら自身の作品をつくります。

若い感性を注ぎ、ピアスやブローチといったアクセサリーといったこれまでにない作品も多くあります。圧巻は内山紙を使い、切り絵を施したタペストリー。郷愁を誘う美しい図柄を、紙を裁つことで浮かびあがらせています。

手すき和紙体験

通年

日帰り

はがき 1 枚 210 円、色紙 1 枚 520 円、しおり 12 枚 620 円、短冊 3 枚 620 円

伝統的工芸品「内山紙」の和紙作りを気軽に体験。手すきのはがきを旅の便りに、しおりや色紙をお土産にするのもおすすめ。

まちなかをきょろきょろしながら歩いてみれば
そこかしこに小さなアートがみつかります。

まちなかアート

元 NTT 東日本飯山ビル

アーケードの一角にある「ふれあい広場」ほのぼのとした壁画に出会えます

飯山駅光柱

駅構内のアトリウムに伸びる光柱
四季折々のしつらえとともに楽しめます

瀬木集落の地蔵堂

全国日曜画家連盟により寄贈された板絵が天井や壁を覆っています

いいやま灯篭まつり

8 月上旬に本町商店街で開催
1 万個もの灯篭が並び日本夜景遺産にも認定

干し大根

ずらりと吊るされているのは大根
農業景観は作為のない芸術的風景

雪囲い

雪の声が聞こえる前に、雪囲い
工夫を凝らした造形は暮らしのアートです

寺の町の芸術

阿弥陀如来像に曼陀羅図、寺の町・飯山は仏教芸術の宝庫。
かつて善光寺で参拝者を迎えた仁王像もそのひとつです。

長野市に建つ善光寺は、幾度となく火災に遭って今に至ります。1891年にも仁王門と仁王像が焼失、しばらく仁王門がない時期が続きました、1912年の御開帳にあわせて飯山の仏師・清水和助が仁王像を手がけました。制作期間は驚きの1ヵ月。無事、御開帳の期間、参拝者を迎え、その後は転々としたのち2012年に飯山市に戻ってくることに。飯山市仏壇事業協同組合により漆黒の仁王像が再現されました。

▶寺めぐりスタンプオリエンテーリング
20余りある市街地の寺社などに切絵作家・柳沢京子さんのオリジナルスタンプを設置。専用台紙に10個以上集めると「極楽浄土行き切符」がもらえます。

マンホールアート

下を向いて歩いてみよう！
地域の特色を映し込んだアートがそこに。

戸狩処理区（外様）

外様地区の象徴・黒岩山と市蝶のギフチョウ
かまくらの里に山が降り、スキーヤーは山へ

飯山処理区

長野県のスキー発祥の地らしく
一本杖で雪ん子が滑る、滑る

戸狩処理区

戸狩温泉スキー場のキャラクター「とが坊」を
艶やかなユキツバキが囲みます

農業集落排水

中山間地域等、農業集落生活排水のマンホール
昭和期に設置したものはデザインが違うものも!?

斑尾処理区

斑尾高原を駆けめぐるウサギと
沼ノ原湿原に咲き誇るミズバショウ

木島処理区

千曲川に架かるシンボリックな中央橋
周縁を彩るのは市花のユキツバキです

名建築に、会いに行く

建物の〝なか〟に飾るものだけではありません。
建物そのものが一度は観たい〝アート〟です。

日本聖公会 飯山復活教会

1895年、飯山で信徒たちが一般民家を公堂としてキリスト教宣教を開始。現在の教会は1923年に念願叶って竣工されたものです。木造切妻造、妻入で鐘楼を設置し、外壁は下見板張に尖頭アーチ窓が並びます。単廊式で会衆席と前室は畳敷、内壁は白漆喰仕上げ。国の登録有形文化財。

飯山市飯山 2278
TEL 0269-62-7000
(信越自然郷飯山駅観光案内所)
見学は要問合せ

北竜湖資料館

江戸後期、飯山城下の愛宕町に建造されたと推定される旧商家を移築復元した資料館。床の間、座敷、茶の間、板の間などをそのままに再現し、かやぶき屋根とともに見応えのある建物です。北竜湖を望む小さな丘に建ち、全国の郷土玩具・民具を展示しています。

飯山市瑞穂北竜湖
開:5～10月は10時～16時
(入館最終15時30分、水曜・冬季休館)
料:大人200円、小中学生無料
TEL 0269-65-3121(文化北竜館)

上から 文化ホールと交流施設をつなぐ「ナカミチ」／カラマツのあしらいが印象的な大ホール／北側のコールテン鋼に覆われたファサード

飯山市文化交流館なちゅら

新国立競技場などの設計で知られる隈研吾氏による2015年竣工の文化交流施設です。氏の建築らしく木材を多用し、さらに飯山で漉いた和紙も使うなど温もりある建物。ホールと交流施設を結ぶ大空間の「ナカミチ」は、豪雪地・飯山を象徴する「雁木」から着想を得たそう。壁面には錆が腐食を抑えるコールテン鋼を採用。融雪水で茶色く変色した市内の道路を彷彿とさせます。まるで、飯山を写し込んだかのような建物です。

飯山市飯山1370-1
開:9時～22時　休:火曜
TEL 0269-67-0311

斑尾に響く音

1982年夏、斑尾高原に奏でられた音が　　かたちを変えて、今も空高く響きます。

ニューポート・ジャズ・フェスティバル・イン・斑尾

1982年、斑尾高原スキー場の開場10周年を記念してはじまり、途中3年間の休止を経て2003年まで開催。
規模・内容ともに国内最高で、各国の一流演者が集う今や伝説のジャズフェス。
斑尾高原を、斑尾＝ジャズを知らしめた催しでした。

斑尾JAZZフェスティバル

惜しまれながら幕を閉じた「ニューポート・ジャズ・フェスティバル・イン・斑尾」。
その4年後の2007年に、あの熱気をもう一度と、地元だけではなく全国の
ジャズファン有志によりはじまりました。2020年は7月25・26日開催予定です。

斑尾JAZZフェスティバル
7月25日㊏・26日㊐
斑尾高原特設野外ステージ／斑尾高原ホテルテラス／まだらお山の家
0269-64-3505（斑尾高原エルムペンション内）

次号予告

飯山旅々。vol.11

「里山サイクリング」

徒歩、自家用車、レンタカー、バス、電車…飯山の旅の移動手段はさまざまですが、絶対の自信を持っておすすめするのが「自転車」です。歩くには遠いかなと思っていた場所も自転車ならすぐそこ。少しだけ遠くを目指せます。さらに里山の風景を楽しむのに、自転車の速度はぴったり。道中が楽しいのが自転車の旅の醍醐味です。冬でも乗れる〝雪ちゃり〟なんていうものも。目的地という点を目指す旅から、線を楽しみ、面を知る旅へ。次回、飯山に訪れるときには、必ず自転車で旅をしたくなるはずです。

＊内容は変更になる場合があります

いいやまうまいもの

⓫ ベーグル

飯山駅近くに建つパン屋さん。パン屋として創業して数10年、今はベーグルの店として営業しています。プレーン、あん、クリームチーズ、くるみレーズン、ピーナッツバターとその種類はさまざま。もっちりとした食感で美味。食パンや小ぶりのコッペパンもあり、お願いするとコッペパンにはジャムとバターをサンドしてくれます。木・金・土曜のみの営業です。

ベーグルの店 やまざき
飯山市飯山新町 276-6　☎ 0269-62-3830
価格：1 個 140 円〜

飯山旅々。
選べるいいやま旅のプラン
vol.10/ 春号

2020 年 3 月発行

編集　　編集室いとぐち
デザイン　OTTO & Ä

一般社団法人信州いいやま観光局
〒 389-2292 飯山市飯山 1110-1
飯山市役所内
TEL 0269-62-3133（平日 8:30 〜 17:15）
FAX 0269-62-7003
www.iiyama-ouendan.net
SNS もご覧ください

写真・イラスト・文章の無断複製、複写、転載を固く禁じます。
Copyright © Shinshu-Iiyama Tourism Bureau All Rights Reserved.

観光に関するお問合せ：
信越自然郷飯山駅観光案内所
TEL 0269-62-7000
8:30 〜 18:00

Iiyama Tabi-Tabi
飯山旅々。
選べるいいやま旅のプラン

飯山に「出会う」旅は、ウェブサイト「飯山旅々。」から

本誌でご紹介した場所や季節は、ウェブサイト「飯山旅々。」の旅のプランで会いに行けます。

〜春夏のおすすめ旅〜

根元までやわらか ジューシーな旬のアスパラガスをいただきます！

全国有数のアスパラガスの産地・飯山に宿泊して朝一番でしか味わえない、やわらかくてジューシーなアスパラを収穫・試食しませんか？とくに 5 月のアスパラは栄養たっぷりの一級品。取り立て・茹でたての試食付きです。

出発日：5 月 1 日㈮〜 31 日㈰の特定日を除く毎日
日　数：日帰り／ 1 泊 2 日
代　金：2900 円／ 1 万 4600 円

飯山なう。 お寺・スイーツ・地酒 〜のんびり寄り道ツアー

飯山駅から高橋まゆみ人形館まで、地元案内人が古き良き町並みや寺や、スイーツ店、造り酒屋をご案内します。老舗和菓子店では和スイーツの試食、造り酒屋では日本酒の試飲も。最終到着地の高橋まゆみ人形館の見学は自由です。

出発日：4 月 1 日㈪〜 10 月 31 日㈭の特定日
日　数：日帰り
代　金：1800 円

森林セラピー日帰りプラン 標高 1000m のブナ林で 森林ヨガ

真夏でも涼しい斑尾高原のブナの森でヨガ体験はいかがでしょう。落ち葉が敷き詰められたフカフカの大地に寝そべって見上げれば、まるで森に溶け込むよう。運動の後はサウナ完備の高原の温泉へ。少し贅沢な休憩時間です。

出発日：5 月 9 日㈯〜 10 月 18 日㈰の特定日
日　数：日帰り
代　金：5800 円

癒しの森林セラピー ハイク & ハンモックの森 星空焚火ナイト

森の案内人とともに森林セラピー®基地の美しいブナの森へ。夕食は郷土料理「笹ずし」を。夜はコテージの前で満天の星空と焚き火の時間が待っています。翌日はハンモックの森で癒されましょう。

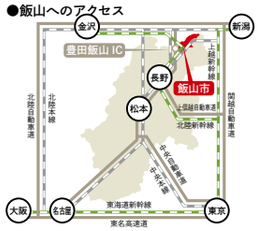
出発日：5 月 6 日㈬〜 9 月 30 日㈬の特定日
日　数：1 泊 2 日
代　金：A 日程 2 万 5000 円
　　B 日程 2 万 6500 円

旅の詳細・検索・お申し込みはこちらから

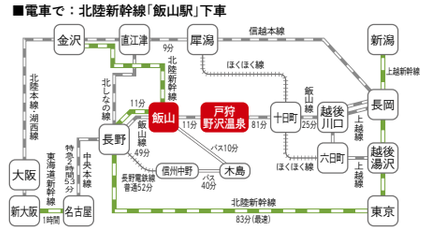
www.tabi-tabi.com

たくさんの旅のプランをご用意して、みなさまをお待ちしています。

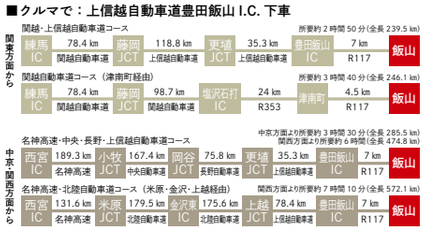
●飯山へのアクセス



■電車で：北陸新幹線「飯山駅」下車



■クルマで：上信越自動車道豊田飯山 I.C. 下車



北陸新幹線開通で飯山が、東京・関西・北陸とぐっと近くに